アセスメント A　不登校の背景

1	**校外での活動が比較的保たれている**	校外での活動や交流は保たれているが、学校には参加しにくい。本人の希望を確かめ、短時間面談や別室などを選択肢として示す。
2	**在宅中心で活動・交流が狭まっている**	外出や交流が減っている。睡眠・不安・学習の負担を見取り、本人が選ぶ小さな活動から接点を保つ。
3	**学校・対人関係・環境の負担が大きい**	いじめ、不適切な指導、学級環境などの負担が疑われる。学校が事実確認、接触回避、安全確保、環境改善を行う。
4	**特性・学び方と学校環境が合わない**	騒音、集団活動、書字や課題量などの負担を確認。座席、見通しの提示、課題・評価の方法などを調整する。
5	**周囲に合わせて頑張り続けてきた**	頑張り続けた後の疲労・体調不良や帰宅後の消耗に注意。休養を保障し、宿題・部活動・行事の負担を減らす。

アセスメント C　心身の負担

確認	状態（目安）	観察のポイント（項目ごとに確認）	具体的な支援の方向
☐	**比較的安定**	普段の様子を基準に変化を確認	普段の状況を把握
☐	**余力が低下し始めている**	「疲れた」「だるい」が増える	休む場所や時間を確保 宿題・行事の負担軽減 調整後の疲労を確認
☐		午後・行事後に動きにくい	
☐		朝の支度・食欲・睡眠の変化	
☐	**余力がかなり減っている**	不安・いら立ち、頭痛・腹痛	励ましで悪化なら中止 負荷を下げ安心を優先 続けばSC・医療等に相談
☐		学校の話題・準備で症状が増す	
☐		家族に強く感情が出る	
☐	**強い消耗が見られる**	起床・食事・身支度が難しい	安全確保と休養が最優先 早めに医療等へ相談 危険な兆候は緊急対応
☐		強い絶望感・抑うつ・自責感	
☐		自傷・希死念慮、飲食不足の兆候	

アセスメント B　経過・変化

参加の安定期	本人に合う学びや活動を継続。疲労や環境変化に応じて負担を調整。
参加の試行期	時間・回数・場所・同伴を一度に1つ調整。翌日の疲れも確認。
関心・活動再開期	本人が望む外出・交流から始める。無理に学校参加へつなげない。
安心・休養期	休養を優先。本人が選ぶ連絡・活動でつながりを保ち、学習を迫らない。
負担・混乱期	説得や突然の訪問をいったん控える。家族支援と安全確認を優先。
気づき期	遅刻・早退、朝の体調変化を確認。声かけの反応や帰宅後の疲れで、参加量を調整する。

記入・活用の留意点

- A〜Cを併せて捉える
- 複数該当してよい
- Cは観察項目ごとに□へ印
- 活動後・翌日の負担も確認
- 本人の意思・安全を優先
- Cは診断・数値尺度ではない

（　　年　　組）

氏名（　　）